

えさし郷土文化館開館 25 周年記念 特別企画展

北の防人たち

岩谷堂足輕と蝦夷地警衛

えさし郷土文化館

Esashi Native District Cultural Museum

2025年11月1日(土) - 2026年2月8日(日)

開館時間/9時30分 - 16時00分 ※休館日/2026年1月1日

〒023-1101 岩手県奥州市江刺岩谷堂字小名丸102-1

☎0197-31-1600 FAX 0197-31-1601

<https://www.esashi-iwate.gr.jp/bunka/>



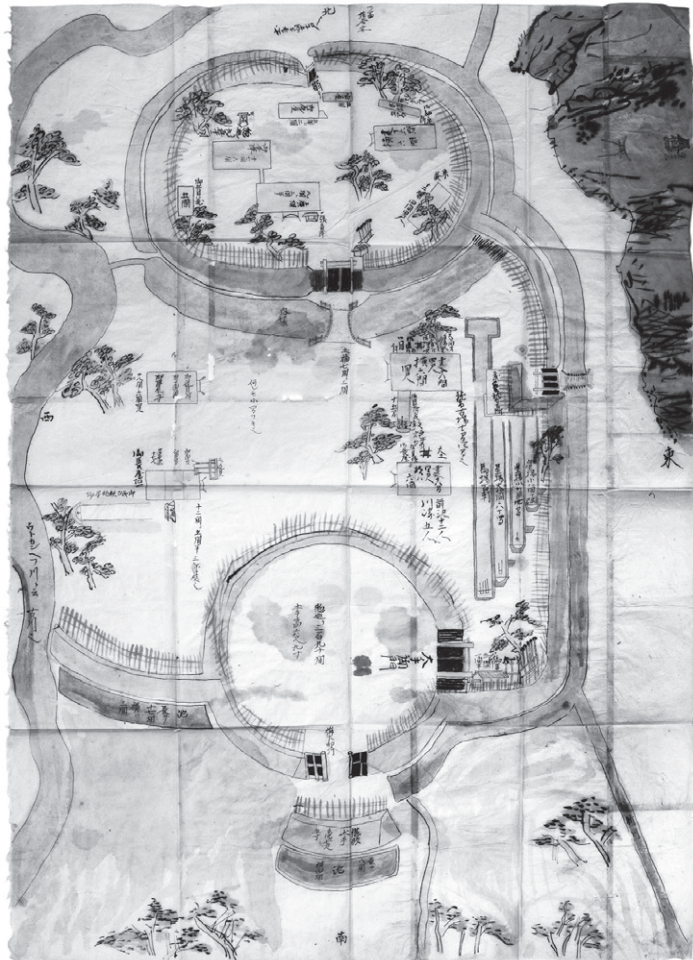
樹皮衣 (石巻市博物館)

共催 えさし郷土文化館、奥州市教育委員会
協力 白老町仙台藩元陣屋資料館、しらおいイオル事務所チキサニ、
石巻市博物館、一関市博物館、愛宕山興性寺、南鱗文庫
入館料 一般 400円(300円)
高校生 300円(200円)
小・中学生 200円(150円)
()内は10人以上の団体料金/未就学児童無料/
奥州市民は市民パスポートの提示で入館料半額

蝦夷人像 (興性寺)
白老元陣屋之図 (南鱗文庫)

江刺郡から「シラヲイ」へ 足軽たちがつないだ北方防備の実像

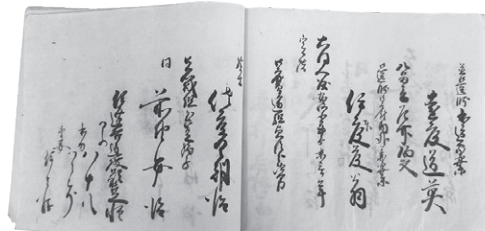
From Esashi to Shiraoi



白老元陣屋之図
安政年間（1854～1859） 南鱗文庫



（上）魚文棒酒管
（下）植物文棒酒管
白老町仙台藩元陣屋資料館



安政七年蝦夷地警固御人数改調
安政7年（万延元年・1860）
白老町仙台藩元陣屋資料館



三好監物所用軍配
江戸時代後期
白老町仙台藩元陣屋資料館

近世の江刺郡（現・岩手県奥州市江刺）は、仙台藩領の北端に位置し、盛岡藩領との境を接していたことから、藩境防備の要衝として重要な役割を担っていました。元和8年（1622）、その戦略的重要性を背景に、藩主・伊達忠宗の譜代家臣によって岩谷堂に足軽が配備され、地域的な軍事体制の礎が築かれます。寛永20年（1643）には岩谷堂城代の預かり足軽、のちに岩谷堂伊達家の預かり足軽として組織に編入され、当初二組50名であった体制は、寛文10年（1680）以降に四組137名へと拡充され、明治維新まで続きました。

幕末の安政2年（1855）になると、ロシア勢力の南下に備えた幕府の命を受け、仙台藩をはじめとする東北諸藩による蝦夷地警衛が始まります。岩谷堂の足軽たちもその一員として東蝦夷地・白老元陣屋を拠点に派遣され、陣屋の整備や国後島方面の警備など、多岐にわたる任務にあたりました。厳しい自然環境と慣れぬ土地での生活は過酷を極めました。残された史料には、緊張に満ちた日々の記録とともに、現地住民との交流や共生の様子もうかがえます。

近年では、白老町の国史跡・仙台藩白老元陣屋跡に隣接する「仙台藩元陣屋資料館」と当館との間で、「白老元陣屋之図」を介した学術交流が進むなど、両地域を結ぶ歴史的なつながりが改めて注目されています。

本展では、これらの史料を通して、岩谷堂足軽の視点から白老元陣屋と東蝦夷地警衛の実態に光を当て、仙台藩の北方防備の歴史を多角的に紹介します。あわせて関連講座も開催し、展示をより深く理解していただける機会を設けます。

「北の防人」たちが歩んだ知られざる歴史の一端に、ぜひふれてみてください。



白老元陣屋跡（国史跡）

関連事業（講演会）

会 場（各回）：えさし郷土文化館 研修室
定 員（各回）：40名（事前申込制）
資 料 代（各回）：400円（入館料込）
申込方法（各回）：電話または当館 WEB サイトの申込フォームからお申込みください

講演会 ①「陣屋跡の歩み ヒト・モノ・コト」
日時：令和7年11月16日（日） 13時30分～15時00分
講師：平野敦史 氏（白老町仙台藩元陣屋資料館学芸員）

講演会 ②「幕末の蝦夷地と仙台藩ー白老陣屋を中心にー」
日時：令和7年12月7日（日） 13時30分～15時00分
講師：菊池勇夫 氏（一関市博物館館長・宮城学院女子大学名誉教授）



- ・東北新幹線水沢江刺駅から車で約15分
- ・東北本線水沢駅から車で約30分
- ・東北自動車道水沢ICから車で約15分
- ・金石自動車道江刺田瀬ICから車で約20分
- ※ 路線バスはありません
- ※ 最寄駅・空港からはレンタカーやタクシーをご利用ください

えさし郷土文化館
Esashi Native District Cultural Museum

〒023-1101 岩手県奥州市江刺岩谷堂字小名丸102-1
☎0197-31-1600 FAX 0197-31-1601
<https://www.esashi-iwate.gr.jp/bunka/>

